

=== T A C S 情報 第1号 ===

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和元年5月28日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

5月上旬の平均気温は、16.1℃（対平年差0.0℃）と平年並みであった。

5月3～5半旬の平均気温は、19.7℃（同+2.5℃）と平年よりかなり高かった。

(2) 降水量

5月上旬の降水量は、40.5mm（対平年比84%）と平年並みであった。

5月3～5半旬の降水量は、60.0mm（同89%）と平年並みであった。

(3) 日射量

5月上旬の平均日射量は、23.5MJ/m²/日（対平年比136%）と平年よりかなり多かった。

5月3～5半旬の平均日射量は、24.9MJ/m²/日（同142%）と平年よりかなり多かった。

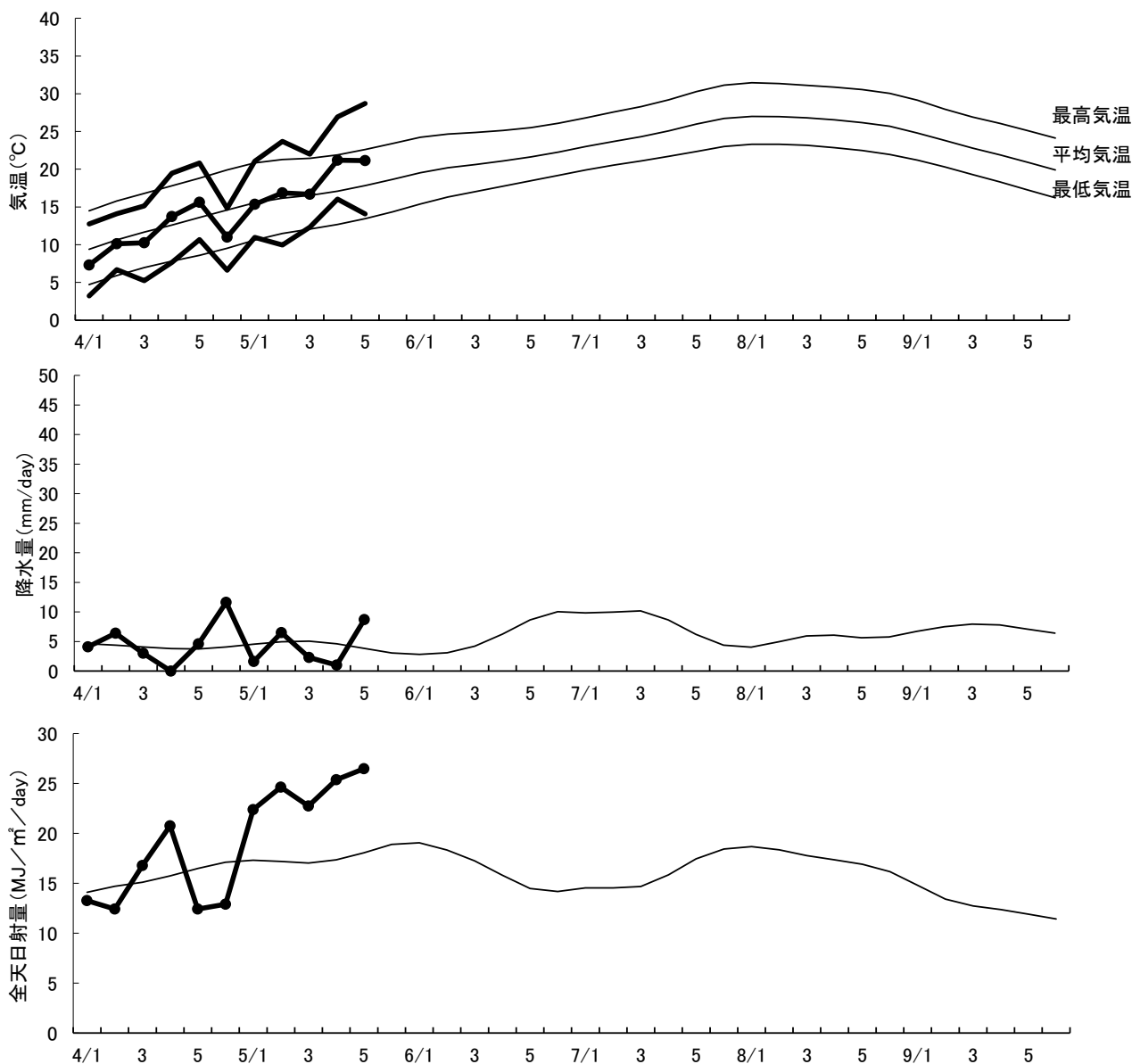


図1 平成31年および令和元年の気象経過（富山地方気象台）

2 生育状況（生育観測ほデータ）

（1）苗の状況

①てんたかく

草丈は平年に比べてやや長く、葉齢、乾物率は平年並みであった。

②コシヒカリ

草丈は平年並み、葉齢は平年に比べてやや小さく、乾物率は平年並みであった。

③てんこもり

草丈は平年並み、葉齢は平年に比べてやや小さく、乾物率は平年並みであった。

表1 苗の生育状況（生育観測ほ）

品種	年次	草丈(cm)	葉齢(L)	葉鞘長(cm)	生体重(mg)	乾物重(mg)	乾物率(%)
てんたかく	R元	14.1	2.7	3.3	85.5	16.0	18.7
	H30	14.5	2.8	3.3	89.4	15.6	17.5
	平年	13.3	2.8	3.3	92.3	18.1	19.7
	前年比・差	97	-0.1	98	96	103	107
	平年比・差	106	-0.1	100	93	88	95
コシヒカリ	R元	13.9	2.5	4.0	85.7	17.7	20.8
	H30	14.9	2.5	4.0	87.4	16.6	19.1
	平年	14.3	2.7	3.8	91.2	18.3	20.1
	前年比・差	93	0.0	99	98	107	109
	平年比・差	97	-0.2	107	94	97	104
てんこもり	R元	12.2	2.5	3.4	81.0	15.5	19.6
	H30	13.3	2.8	3.5	99.5	19.3	19.4
	平年	12.5	2.7	3.6	89.7	18.1	20.4
	前年比・差	92	-0.3	98	81	81	101
	平年比・差	98	-0.2	97	90	85	96

注) 平年 : H21～30年の平均

（2）本田での生育状況

①てんたかく

平年に比べ、草丈は並み、茎数はかなり多く、葉齢はかなり進んでいる。

②コシヒカリ

平年に比べ、草丈はやや長く、茎数はかなり多く、葉齢は進んでいる。

③てんこもり

平年に比べ、草丈はやや長く、茎数はかなり多く、葉齢はかなり進んでいる。

表2 水稻の生育状況（5月28日 生育観測ほ）

品種	年次	田植日 (月/日)	植付本数 (本/株)	栽植密度 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色
						(本/株)	(本/m ²)		
てんたかく	R元	5月3日	3.7	21.5	25.5	10.1	216	6.9	4.6
	H30	5月5日	3.7	22.3	25.3	5.4	121	5.9	4.1
	平年	5月6日	3.8	20.7	24.3	6.7	140	6.0	4.3
	前年比・差	-2	0.0	-0.8	101	186	178	1.0	0.5
	平年比・差	-3	-0.1	0.8	105	151	155	0.9	0.3
コシヒカリ	R元	5月14日	4.0	22.1	24.4	5.5	121	5.1	4.1
	H30	5月14日	3.8	22.0	23.0	3.6	79	4.5	3.8
	平年	5月14日	3.8	20.9	22.5	4.4	91	4.6	3.8
	前年比・差	0	0.2	0.1	106	153	153	0.6	0.3
	平年比・差	0	0.2	1.2	109	126	133	0.5	0.3
てんこもり	R元	5月8日	4.5	19.4	23.4	11.6	219	6.4	4.5
	H30	5月7日	3.5	20.1	23.5	5.9	116	6.0	4.1
	平年	5月8日	3.7	19.0	21.9	5.9	110	5.7	4.2
	前年比・差	1	1.0	-0.7	100	196	188	0.4	0.4
	平年比・差	0	0.8	0.4	107	197	198	0.7	0.3

注) 平年 : H21～30年の平均、ただし植付本数はH22～30の平均

3 当面の技術対策

- ・「てんたかく」、「てんこもり」等の田植時期の早いほ場では、早急に溝掘り・中干しを確実に行う。
- ・「コシヒカリ」は、今後、分けつが急激に増えると見込まれることから、田植後3週間を目安に軽い田干しを行い、中干しに入る前に確実に溝掘りを実施する。

(1) 「てんたかく」、「てんこもり」等の田植時期の早いほ場の管理

田植えが早く、すでに有効茎の80%が確保されているほ場では、早急に溝掘り・中干しを確実に行う。また、それ以外のほ場でも、溝掘り・中干しを遅れずに実施する。

ただし、高温・多照が続くと予測されるため、一度に乾かしすぎないように注意する。

(2) 「コシヒカリ」の管理

本年は、茎数が多く、葉齢の進みが早くなっており、今後分けつが急激に増えること見込まれることから、田植後3週間を目安に軽い田干しを行い、中干しに入る前に、確実に5m（15～17条）に1本を目安に溝掘りを実施する。

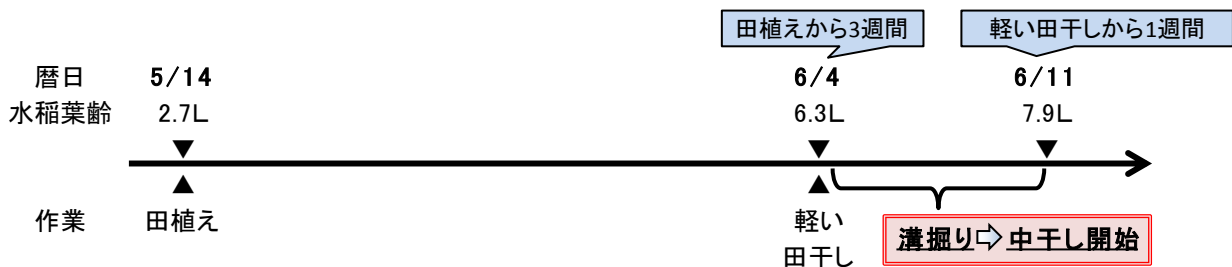


図2 溝掘りと中干し実施のイメージ

注) 水稻葉齢：H21～30生育観測ほコシヒカリの平均値

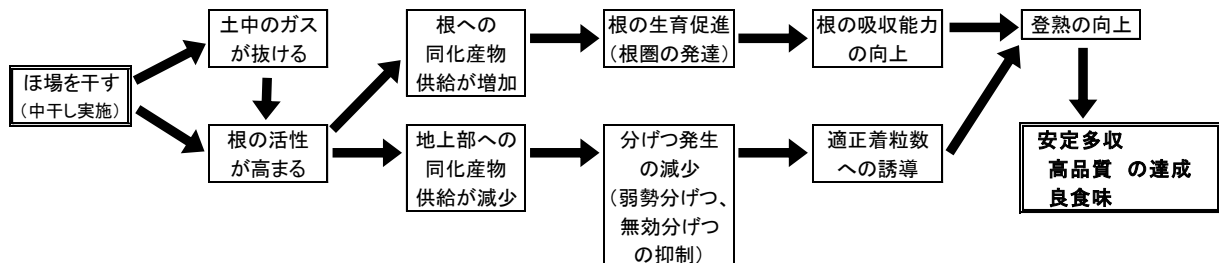


図3 水稻に対する中干しの効果

(3) 共通管理

① 雑草防除を的確に

雑草の発生がみられる場合は、草種と生育状況に応じて、適切な中・後期剤を散布する。なお、シメトリンを含む中期剤については、高温が予想される場合は散布を控える。

また、除草剤の散布にあたっては使用基準を厳守するとともに、湛水散布の場合、散布後7日間は止水管理（「落水」や「かけ流し」をしない）とし、水田外への流亡を防ぐ。

② 病虫害防除を徹底

<カメムシ類>

- ・畦畔等におけるカメムシ類のすくい取り虫数は多くなっている。今後、さらに発生量が多くなると見込まれるので、イネ科雑草の穂が出ないように草刈りを徹底する。

※ 草刈り運動期間：7月1日～10日 一斉草刈り日：7月6日～7日

<いもち病>

- ・補植用の苗は、いもち病の発生源となるので早急に取り除く。

「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

1 生育状況（実証ほデータ）

（1）苗の状況

草丈、葉齢、第1葉鞘長および乾物率は前年並みであった。

一方、目標値に比べて、草丈は長く、第1葉鞘長はかなり長かった。

表1 苗の生育状況（実証ほ）

年度	草丈 (cm)	葉齢 (葉)	第1葉鞘長 (cm)	生体重 (mg)	乾物重 (mg)	乾物率 (%)
R元	12.4	2.4	3.8	79.7	15.4	19.3
H30	12.6	2.5	3.7	82.8	15.9	19.3
H29	12.6	2.5	3.7	79.9	14.8	18.6
目標値	11~12	2.5	3.0	-	13~15	-
前年比・差	98	-0.1	103	96	97	100
対目標比・差	108	-0.1	127	-	110	-

注) R元: 実証ほ18か所の平均

H30およびH29: 特別栽培米を除く、それぞれ19および16か所の平均

（2）本田での生育状況

前年に比べ、草丈はやや長く、茎数はかなり多く、葉齢は進んでいる。

表2 「富富富」の生育状況（5月28日 実証ほ）

年次または 試験内容	ほ場数 (筆)	田植日 (月/日)	植付本数 (本/株)	栽植密度 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色
						(本/株)	(本/㎡)		
R元	12	5月13日	4.1	21.6	22.2	5.3	114	5.1	4.2
H30	19	5月15日	3.8	21.9	20.7	4.2	92	4.6	3.9
H29	16	5月14日	3.8	20.8	24.2	4.9	100	4.9	4.0
前年比・差		-2	0.3	-0.3	107	128	125	0.5	0.4
早期田植栽培	6	5月4日	4.1	21.4	24.3	9.7	206	6.4	4.6
高品質安定栽培	6	5月15日	4.1	22.1	22.0	4.8	105	4.8	4.2

注) R元・平均: 生育観測栽培と高品質安定栽培・対照区(合計12ほ場)の平均

H30およびH29: 特別栽培米を除く、それぞれ19および16か所の平均

2 当面の技術対策

- ・無効分けつの抑制、根圏の発達促進、適正な葉色への誘導のため、**中干しは田植後1か月までに遅れないよう確実に実施する。**

（1）溝掘りと中干し

水管理の効率を高めるため、田植3週間後を目安に軽い田干しを行った後、田植4週間後までに溝掘りを行う。

「富富富」は葉色がやや濃いめに推移することから、無効分けつの抑制、根圏発達の促進とともに、幼穂形成期に適正な葉色へ誘導するため、**田植1か月後までに中干しを確実に実施する。**

（2）その他の管理

病害虫および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通しての化学合成農薬の成分使用回数が12以内となるように留意する。